

非赤枯性溝腐病

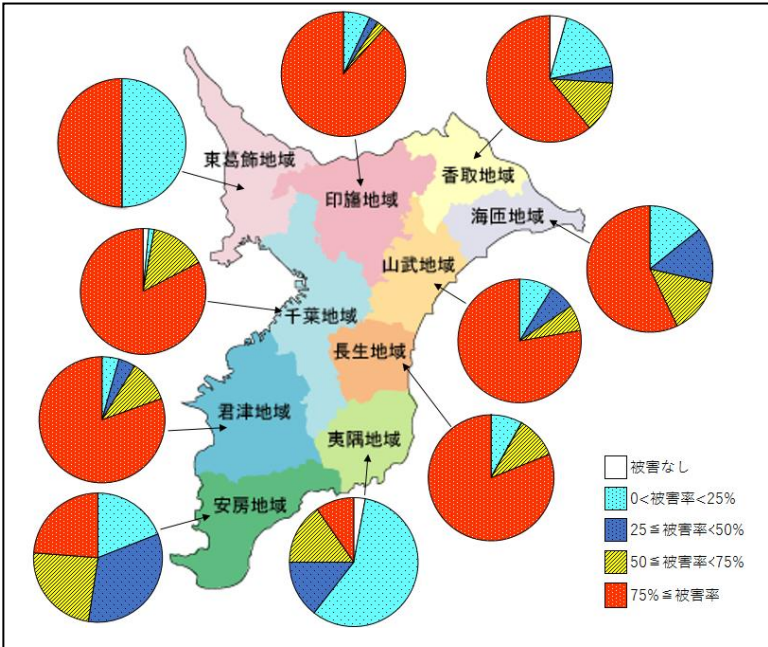
- 1960年代に茨城県南部で初めて被害が報告された。
- 原因は、チャアナタケモドキという木材腐朽菌。
- 子実体（きのこ）から孢子が飛び感染する。
- サンプスギに被害が多い。
- 罹病すると幹が腐朽し、溝が形成されて木材としての価値が失われる。
- サンプスギ林 9,180ha のうち、本数割合で 75%以上の被害を受けている面積は 6,066ha、被害が 25%未満の面積は 1,607ha となっている（平成 29 年度森林課調査）



罹病部分の断面



チャアナタケモドキの子実体



サンプスギ林の地域別被害状況



風害を受けた非赤枯性溝腐病の被害林



被害林の再生